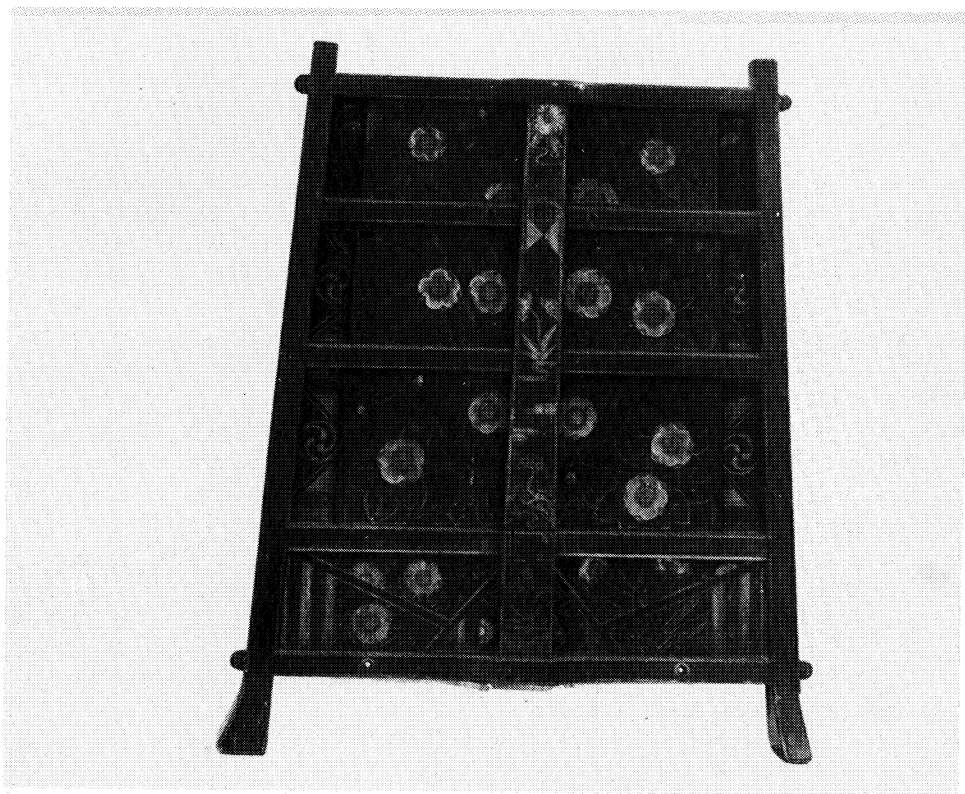


県指定重要文化財

## 椿彫木彩漆笈（一背）

安達郡東和町大字戸沢字月夜畑 最勝寺



最勝寺の椿彫木彩漆笈 一背

椿彫木彩漆笈（一背）は、総高八十八センチメートル、幅上端六十一センチメートル、同下端七十・五センチメートル、脚の開き七十四センチメートル、奥行上端四十三センチメートル、同下端四十四・五センチメートル、三段造りの三脚箱笈である。材質はカツラと推定される。内部は三段に区画され棚板一枚を失っているが、一段ごとに二枚の開戸が設けられ、中央に扉支木がある。

扉の面には鎌倉彫（木地に図様を薄肉彫にし、漆色を塗り分けて仕上げた漆芸の技法）の花椿を一面に彫って、朱彩の花、黒漆の枝葉を表し、花蕊に金箔を押している。葉全面には銅鋳が打たれ、左右の羽目板に菊、蓮などを彫り、三ツ巴文と三角文の彫りがある。下段にアヤマメ状の草花と三角刻み文があり、扉支木にも同様の図柄が表現されており、完形な姿の笈である。

同種鎌倉彫の笈は、神奈川県博物館など東日本に伝来されており、本県では国指定の熱塩加納村の示現寺蔵、会津坂下町高久氏蔵があり、巴文及び側板仕上りヤリカンナ手法から室町期と推定されるが、本笈もこれらに比して劣るものではない。

なお、月光山光照院最勝寺は、応永三十年（一四二三年）草創の古刹と伝えられ、初め曹洞宗、現在は天台宗である。